

二〇一九年六月一八日(参加者一五名)

身に入むや古りて倒れし水難碑
 茅花叢土手のなぞへに風いなす
 機首たてて飛機梅天へ消えにけり
 風に揺れ列見出しをる早苗かな
 猪名川の流れは見えず草いきれ
 錆び初めて花の重さや菖蒲園
 さざ波の駄けやまざりし植田かな
 梅雨寒や崩れしままの供養塔
 うす紅の実を散らしたる園の梅
 青空を自由奔放水すまし
 竹林の小径に入れば風涼し
 小流れに水漬かんとする四葩かな
 堀越しに背伸びして見る立葵
 風いなし植田の根づき初めにけり
 姫女苑ささやくやうに風に揺れ

ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 ぼんこ
 宏 虎
 宏 虎
 宏 虎
 宏 虎
 満 天
 満 天
 満 天
 満 天
 和 子
 和 子
 和 子
 小 袖
 小 袖

離陸機の 大旋回す夏の空
 とうぼうが池の 歩板を先導す
 菖蒲池うす紫が 主役かな
 園愉し実梅の落つるままにして
 八つ橋に猫の寝そべる菖蒲池
 皮脱ぎしばかりの竹の瑞々し
 要とす鎮守の杜や植田中
 古ベンチ虜に群るる姫女苑
 離陸機の音を残して梅雨雲に
 喬木の樹下のベンチに風涼し
 夏空へ鋼材啞え大クレーン
 素 秀
 わかば
 わかば
 わかば
 よう子
 よう子
 よう子
 よう子
 せいじ
 せいじ
 せいじ
 はく子
 はく子
 はく子
 もとこ
 もとこ
 もとこ
 もとこ

定例会会みの選

二〇一九年六月一八日(参加者一五名)